

### いわてを見る

近年様々なストレスから、何時しか体重が増え現場がまともに歩けないほどの体型になってしまった。地すべり、山腹崩壊など斜面災害を取り扱う技術者として、踏査が思うようにできなさそうな印象では、お客様に信用されずまたケガのリスクも高まり迷惑をかける。そこで一念発起しサイクリングを始めて6年が経過し健康的な体を取り戻した。めぐる季節を自転車で走り回る風景のなかで技術士の目線で興味を持ったことを以下にまとめる。

#### ルート1 盛岡→渋民→安比高原→西根→盛岡 90km

安比高原にむけてまず県道169号渋民川又線を走るわけだが、ホルモン定食が有名な玉山支所前食堂の道といえはわかりやすいだろうか？この道を走っていると茶色のパイプラインが右手に見える。これは岩洞湖から取水しサイホンで第一発電所経由第二発電所にて使用後、最終的に滝沢の水田に利用されている。昭和35年から運転が開始され、実に50年以上も発電し続け最終的には農業用水として利水されているエコロジカルな施設だ。最近、伐採跡地利用としてソーラー発電、風車群をよく見かけるが、水力発電のようにこれほど永きにわたり施設が維持されるのだろうか？対時的な疑問を抱く。日本の風土は、温暖で雨が多く植物の成長が適しており、裸地はすぐに草で覆われる。また、パネル表面は森林から発せられる花粉や動物の糞などが付着するなど、人工物にとっては劣悪な環境と思うのだが。

#### ルート2 盛岡→渋民→安比高原→アスピーテライン→西根→盛岡 120km

ルート1に加え八幡平を周遊するアスピーテラインや樹海ラインを登る苦行を年2回はチャレンジしてしまう。アスピーテラインは、頂上の見返り峠まで激坂が20kmも続く。緑が丘付近の最後のスノーシ

ェルターを過ぎると、ものすごい音を立てて蒸気を吐き出す目新しいパイプラインが見えてくる。平成31年に運用を開始した松尾八幡平地熱発電所だ。旧松尾鉱山新中和処理施設における必要容量に合わせて発電出力を7000kWと決定されたとのこと。また、樹海ライン側には松川地熱発電所がある。蒸気を吐き出す大きい冷却塔がシンボルだ。松川地熱発電所は、昭和41年に運転を開始し、55年にわたり発電し続けている。最大出力2万3500kWと大きい。これら地熱発電は、岩手の自然を有効活用した効率的な自然エネルギーである。これら施設も永きにわたり電力や温水、温泉としても近隣へ恵みを与えている。ちなみに東日本大震災の際、盛岡では主要電力、水道が停止したが、この付近は、停電もせず温泉もあり特に困らなかつたとの報告もあり自然災害に強い施設だということが改めてわかった。

緑が丘からは、地すべりによって形成された急峻な壁に、つづらおりの道が作られており平均8%、最大勾配10%以上の激坂が3kmに渡り続く。何度も脚を痠りながら激坂を登ると、源太岩展望台の絶景が待っている。岩手山が一望できる絶景スポットだ。また茶臼岳から北ノ又川に向けて明瞭な大規模地すべり地形を眺望できるスポットである。しばし休憩した後、見返り峠までよれよれになって登りきり達成感を存分に味わう。

#### まとめ

自転車は、目を引く風景があればすぐに停止しじっくり観察することができる。これからも岩手の大自然を満喫しながら、大自然に溶け込んだ自然再生エネルギー施設の巡り発見し報告できればと考える。